

『子どもの貧困と子育て支援

～細部に宿る人権を護り、育てる～

にしの
西野 しんいち
伸一

さん（社会福祉法人 石井記念愛染園 大国保育園 園長）



人権保育専門講座3では、大国保育園長の西野伸一さんに、「子どもの貧困と子育て支援」と題してご講演いただきました。新型コロナウイルスの影響により、これまで講座の中止や変更を余儀なくされましたが、伊賀市の会場で開催することができました。

子どもの貧困が深刻な課題である状況下で、子どもや保護者がどのような生きづらさを抱えさせられているのか、だからこそ保育園は、そして地域ではどんな取組を大切にしているかについて、事例に基づいて詳しくお話しいただきました。

現代の子どもたちの暮らす社会の問題

- 子育てのなかで「早く」「きちんと」「たくさん」「同じように」「効率的に」「失敗しないように」といった、工場モノを作るときのような言葉かけがあふれていることに疑問をもちます。
- 現代は、経済優先で人と人との関係がつくりにくいという課題があります。正しく間違わない子育てをするよという情報はあふれていますが、個人の責任として強いられる子育てが親を追いつめます。
- 「貧困」は、虐待やDVといった暴力と表裏一体の関係にあります。7人に1人の子どもが貧困の状態にありますが、1人の問題ではなく、6人も含めた社会全体の問題として考えていくことが大切です。

解決をめざすのではなく「つながり」「安全・安心」により、ちからを取り戻すことを

- 表面に出てくるものには背景があります。子どものおかれている環境、そして親の成育歴などの背景を見ていくと、「困った親」ではなくて「困っている親」であることに気づきます。私たちには、問題行動の背景にある背景にある見えないものを見ようとするちからや、聞こえない声を聴くという感性が求められます。
- 職員で「向き合うのをやめよう」と話し合いました。隣り合って同じ目線に立ち、同じ世界を見ようとする姿勢になろうと確かめ合いました。そして対話によってつながりなおし、しんどいときほど出せないSOSを聴ける、話してもらえる存在になることを大切にしました。

保育園という地域の福祉施設を「in」「for」「with」「by」で考える



- 「in」 ……単に地域のなかにある施設・保育園なのか
- 「for」 ……地域のための施設・保育園なのか
- 「with」 ……地域と共にある施設・保育園なのか
- 「by」 ……地域住民自身が福祉活動をつくりだす拠点かどうか

- 「in」から「for」、そして「with」から「by」をめざしていきたいと考えています。保育園は地域のなかにあっても、つながりがないと子どもたちを見守っていくことができません。公的なネットワークである「要保護児童対策地域協議会」や自主組織も含めて地域の人たちとともに取組を進め、地域住民が中心となって考えていく子育てを、保育園が拠点となってサポートしていく、そんな地域福祉をめざしていきたいと思えます。

【参加者のアンケートより】

- 園でも子どもに「はやく」「ちゃんとして」「みんなと一緒にのことでして」と言ってしまいがちです。子どもはモノじゃないんだと改めて思いました。意識して子どもにかけることばを考えていきます。
- 専門性において、隣り合って考えるということが印象に残りました。自分の「こうあってほしい」という想いが前に出てしまっていることもあると感じました。まずは、当事者や子どもたちの本当の想いを受けとめていきたいと感じました。
- 親子の事例が印象的でした。地域のネットワークの大切さをとても感じました。また“向き合う”だけでなく“隣り合う”ということも大切だと感じました。